

令和2(2020)年度 業務の実績に対する評価結果の反映状況の公表について

令和2(2020)年度 業務の実績に対する評価結果の反映状況は以下のとおりです。

【価値目標】：県が法人に期待する目標 (= 中期目標)

【実現目標】：価値目標を達成するために法人が目指すべき目標・評価指標

分野	令和2(2020)年度計画	実現目標 (2020年度)	評価結果(課題)	評価結果の反映状況	
				令和3(2021)年度	令和4(2022)年度
地域貢献 (教育)	【価値目標】 医師・看護師・保健師の県内定着				
	<p>県内の地域医療に対する意識を涵養するため、2019年度に実施した「奈良学」の授業評価を踏まえ、カリキュラムをブラッシュアップする。</p> <p>早期体験実習(early exposure)の実施案を作成するため、先進大学の実施内容を調査するとともに、受け入れ病院の確保を県の支援を受けながら進める。</p> <p>臨床医学教育課程で引き続き在宅医療学の講義及び臨床実習を実施する。</p>	<p>医学科卒業生の県内就業率の確保(第3期期間平均60%)</p>	<p>医学科卒業生の県内就業率は第3期期間平均56.9%となり、目標(平均60%)を達成できなかった。</p>	<p>奈良についての理解を深め、県内の医療状況を知り奈良の医療に貢献する意思を涵養する「奈良学」の実施、前年度の学生への授業評価アンケートの結果や教職員が提起した課題をもとに授業内容及び授業形態の見直しを行った。</p> <p>NPO法人卒後臨床研修評価機構による医師臨床研修評価認定において、臨床研修修了後の定着率の高さ、大学病院ならではのアカデミックな研修などについて高く評価された。</p> <p>また、例年、県内臨床研修病院の医師を対象とした臨床研修指導医講習会を開催することで医師の県内定着に貢献している。</p> <p><研修医マッチング率> 奈良県：97.7% 本学附属病院：100%</p>	<p>医学科卒業生の県内就業率向上のため、引き続き「奈良学」の実施や早期体験実習(early exposure)の実施等により、県内の地域医療に対する意識涵養に資する取組を推進することとした。</p> <p>県の研修医マッチング率向上のため、引き続き臨床研修指導医講習会を開催し、県内臨床研修病院の医師の指導を行うこととした。</p>

分野	令和2(2020)年度計画	実現目標 (2020年度)	評価結果(課題)	評価結果の反映状況	
				令和3(2021)年度	令和4(2022)年度
	<p>医学科学生の初期臨床研修の地域定着率を把握するため、地域医療学講座、臨床研修センター、県費奨学生配置センター、同窓会等の協力を得て進路の追跡方法と入試区分と進路の関係についての分析方法を検討する。</p>	<p>県内医療需給の動向に関する地域医療対策協議会の検討結果に応じた地域卒の人数の調整(地域卒定員数の調整検討)</p>	<p>出身高校所在地と現在の勤務地との関係性を調査したところ、所在地と勤務地に関係性があるとの結果が得られたが、出身地及び卒業後の勤務先(進路)の把握ができなかった。そのため、地域医療学講座及び関係部署とともに、卒業2年まで進路を追跡し、出身地及び出身校と進路との関連性の分析を行う予定であったが、実施できなかった。</p>	<p>「臨床研修修了後の勤務地も含めた地域定着率の算出方法の確立」、「『地域への定着』の概念の統一化」が課題であることから、本学の入学定員変更を行った平成25年度の変更前後の入学者における、臨床研修先を地域とし、試験的に定着率を算出した。</p>	<p>医療人育成機構を中心に医学科生の卒業後の地域定着率と入試区分との関連を分析し、入試区分毎の定員数の調整について検討することとした。</p>
	<p>へき地の実情や行政活動の課題等を理解するため、実際にへき地を訪れて実習する「へき地体験実習」を引き続き実施する。</p>	<p>看護学科卒業生の保健師県内就業者数の増加(第3期期間平均6人)</p>	<p>一泊二日の「へき地体験実習」を予定していたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、実習中止となった。 看護学科卒業生の保健師県内就業者数は第3期期間平均4名となり、目標(平均6名)を達成できなかった。</p>	<p>保健師課程履修者に対して、保健師の求人情報の提供や保健師の需要状況について周知を行うなど保健師採用試験の受験率向上のための取組を行った。 採用試験対策として、希望者に志願書の書き方及び面接対策の個別指導を実施し、また、採用試験不合格者に対して学生の特性に合った県内自治体の再受験を勧めるなど保健師志願者への支援を行った。 <県内保健師就業者数>5名</p>	<p>引き続き求人情報の提供など受験率向上に向けた取組や採用試験対策等保健師志願者への支援を行うこととした。</p>

分野	令和2(2020)年度計画	実現目標 (2020年度)	評価結果(課題)	評価結果の反映状況	
				令和3(2021)年度	令和4(2022)年度
地域貢献 (診療)	【価値目標】 病病連携・病診連携の推進				
	ネットワーク病院における、かかりつけ医からの紹介患者数を定期的に把握し、進捗状況を全体会議で分析・評価して対策を検討する。	糖尿病専門医養成数の増加 2人(累計) (第3期期間累計6人)	糖尿病専門医の育成に関しては、令和2年度受験予定であった医師がライフイベントによる休職により、受験が1年延期となった。次年度に向けて、糖尿病診療の魅力の発信、初期研修医の受入、早期学会入会の促進等を進めていくこととした(令和3年度は2名受験予定)。	糖尿病診療の魅力を伝え糖尿病診療の理解をより深めてもらうため、学生や初期研修医を対象にした勉強会を週1回開催した。また、令和3年度から新たに医学科4～6年生において、糖尿病・内分泌内科での臨床実習(2週及び4週)を実施し、初期臨床研修において、同科を本学附属病院初期臨床研修プログラムの必修科とし、卒後1年目から開始した。 令和3年度糖尿病専門医試験を2名が受験し、2名合格した。	糖尿病・内分泌内科(糖尿病・内分泌内科学講座)において、専攻医、臨床研修医及び学生等に対して、糖尿病診療の魅力や必要となるスキル等について情報発信し、糖尿病診療に従事する医師の裾野を拡大することとした。
診療	【価値目標】 県内基幹病院としての機能の充実				
	認定看護師の資格取得者を増加させるため、意向調査や情報提供を行う。	認定看護師等の増加 6人(累計) (第3期期間累計15人)	認定看護師の資格取得者は令和元年度から3名増加の累計4名となり、目標(令和元年度からの累積6名増加)を達成できなかった。	認定看護師の体験型研修の実施や認定看護師の活動紹介動画を作成し、オンデマンド配信するなど、認定看護師に関心をもつ看護師を増加させるための取組を行った。 認定看護師育成ワーキングを立ち上げ、認定看護師による後進育成についての検討を開始した。	引き続き意向調査や情報提供、体験型研修を行うとともに育成支援のあり方を検討することとした。
法人運営	【価値目標】 医療人としての人材育成				
	将来を見据えた戦略の下、教育開発センター、臨床研修センターおよび看護実践・キャリア支援センターの統合に向けた検討を進める。	センター運営	令和元年度中に医療人育成機構の設置を達成する計画であったが、1年遅れての設置となった。	令和3年4月1日付で「卒前医師及び卒前看護師育成部門」「卒後医師育成部門」「卒後看護師育成部門」からなる医療人育成機構を設置した。また、良き医療人を育成するための具体的な内容の検討を開始した。	令和2年度に取りまとめた「良き医療人」の定義に基づき、全ての職員、学生及び臨床研修医等に対し、良き医療人を育成するための具体的な内容を検討し、運営することとした。